

第三あおい幼稚園 自己評価（令和3年度）

評価の基準、は、「A:他の保育者に指導できる、B:自らの力で出来る、C:指導されれば出来る、D:まだ出来ていない」という、自分個人の能力だけではなく、園の中での自分の果たすべき役割を意識した基準となっている。

- A:他の保育者に指導できる 3 ポイント
- B: 自らの力で出来る 2 ポイント
- C: 指導されれば出来る 1 ポイント
- D: まだ出来ていない 0 ポイント

として配点して全体の達成率を算出した。

職員自己評価

- 昨年度に比べ 15 項目中 13 項目の達成率が上がり、2 項目が下がっている。

下記の通り、9～10%程度上がっている項目が 3 項目、3、5%下がっている項目が 2 項目あった。全体的に達成度は上がっている。

【達成度があがった項目】

- ③職場内のコミュニケーションに配慮し、良好な人間関係の構築につとめているか 10% ↑
- ④チームワークの重要性を理解して行動しているか 9% ↑
- ⑥子どもに対し、基本的生活習慣の習得のための適切な支援が出来ているか 9% ↑

【達成度が下がった項目】

- ⑦子ども一人ひとりに対応できる保育を行っているか 3% ↓
- ⑭保護者に対する適切な支援とはどのようなものを把握し、実行できているか 5% ↓

- 日々の保育の中での感染症対策（手洗い、消毒、飲食の際の注意など）については、比較的スムーズに行えるようになってきた。
- 日々変わる感染状況の中、音感、合唱、今までならば行えた遊びなど、活動は思うように進められなかったが、園児数が少ない小規模園であることを活かし、柔軟に対応することで、出来る限りの活動を行うことができた。
- 令和2年度に比べ、クラス担当の職員間の話し合いが密になり、活動の内容についても意見を出し合うことが出来た。
- 正規職員の時短勤務の比率が他園に比べ高く、早番、遅番には入れるパート職員も限られているため、遅番、早番、バス当番などの当番を担う職員の負担が大きくなっている。
- 発達に関すること、国籍による文化・言葉の問題など、特別な配慮が必要な園児が多くなっている。外国籍の園児に関しては、ここ数年特に増加傾向にあり、様々な国籍、文化があるため、対応が難しい。発達支援の研修とともに、様々な国の文化や家庭環境なども把握出来るようにしていきたい。

園長・主任 評価

園長・主任評価も、前年度に比べ全ての項目の達成度が上がっていた。

【特に達成度が上がっていた項目】

- | | |
|-----------------------------------|-------|
| ⑤職場内の課題に対し、自らが主体的に行動して問題解決に導いているか | 21% ↑ |
| ⑦子ども一人ひとりに対応できる保育を行っているか | 20% ↑ |
| ⑬保護者との間で、適切なコミュニケーションを行えているか | 22% ↑ |

【職員の自己評価との差が大きかった項目】

⑦子ども一人ひとりに対応できるコミュニケーションを行えているか

職員 58% 園長・主任 84%

発達のばらつき、国籍が異なる園児に対する対応、支援、様々な文化を持つ家庭への対応、保護者支援など、個別対応必要なスキルが多くなっている。外国籍の園児はここ数年増加傾向にあり、保護者対応に慣れてきているとはいえ、集団で活動を行う事が難しい場合も多い。

職員間で情報を常に共有し、研修を行いながら、子ども一人ひとりに対応出来るスキルをアップさせていきたい。

また、引き続き外国籍の園児が当園に偏りすぎない様、各所にも働きかけを行いたい。

⑬保護者との間で、適切なコミュニケーションを行えているか

職員 63% 園長・主任 84%

職員自己評価の達成度はコロナ以前の状態まで上がり、園長・主任の評価はコロナ以前よりも上がっている。

新型コロナウイルス感染症により、保護者が参観する機会が減る、行事の中止などもあったが、登園、降園の際の声かけを増やすよう心がけ、ゆめねつとなどで園児の様子を積極的に配信するなど、昨年度よりも保護者への情報発信は行っていた。

園児が少人数であることも活かし、担当のクラスの園児だけでなく、全園児を職員全体で見守り、成長を伝えるように努力してきた1年だった。

今後も、各家庭の状況や悩みを把握するよう務め、保護者が相談しやすい環境作りに力を入れていきたい。

⑭保護者に対する適切な支援とはどのようなものを把握し、実行できているか

職員 48% 園長・主任 73%

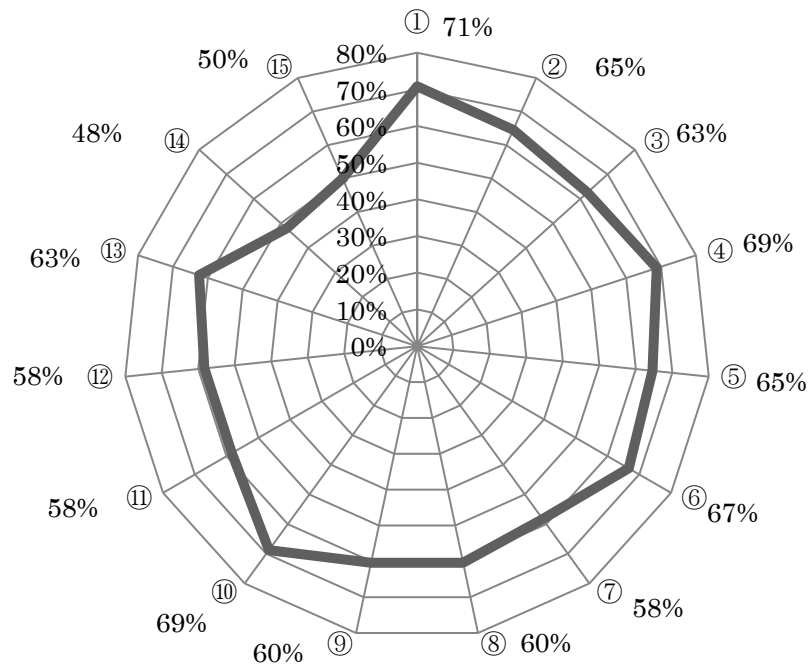
保護者とのコミュニケーションを大切にしてきた1年だったが、保護者からの発信がなければ、悩みまでを把握することは難しい。日頃から園児の様子を伝え、コミュニケーションを密にすることにより、家庭での園児の様子、悩みを保育者に伝えやすい環境を作り、支援を行えるようにしたい。

外国籍の園児の家庭に関しては、言葉などの問題からコミュニケーションが難しい場合が多い。職員間で情報共有を密にして、家庭状況を把握するように努めるとともに、公的な支援についても行政に働きかけを続けたい。

今後の課題

- 園全体として、職員間のコミュニケーションをより深めること
 - ・未満児担当の正規職員とパート職員、以上児担当の正規職員とパート職員、正規職員同士、パート職員同士、職員全体など、分けした打ち合わせ時間を確保する
- 当番を担う職員の負担を軽減すること
 - ・クラス担任であっても、遅番は遅い時間に出勤する、早番は早い時間に退勤することの徹底
 - ・早番や遅番の時間帯に勤務できる職員の採用、確保（パート含め）
 - ・勤務時間内にノーコンタクトタイム（園児と離れて、保育計画、記録などを行う時間）をきちんと確保する
- 発達支援に関する研修の充実
- 保護者、家庭の悩みを相談しやすい環境作りの継続

第三あおい幼稚園 職員自己評価（令和3年度）



第三あおい幼稚園 園長・主任評価（令和3年度）

